

たまねぎレポート【第416号】



令和4年6月27日

阪南青果株式会社

社内報

5月の天候は、気温は北日本で高かった一方、沖縄・奄美で低かった。降水量は、西日本の日本海側でかなり少なかった一方、沖縄・奄美で多かった。日照時間は、東日本の日本海側でかなり多かった一方、沖縄・奄美でかなり少なかった。6月の梅雨入りは平年より遅く、梅雨明けは平年より早くなりそうだ。月前半の北海道では、平年に比べ気温の低い日が多かった。

気象庁の7～9月の3か月予報では、平均気温は、北・東・西日本で平年より高い確率50%。今年も暑い夏が予想される。

7月、北日本では、平年と同様に曇りや雨の日が多い。東・西日本では、月前半は平年に比べ、曇りや雨の日が少ない。月後半は、平年と同様に晴れの日が多い。

8月、北日本では、天気は数日の周期で変わる。東日本の日本海側では平年と同様に晴れの日が多い。東日本の太平洋側、西日本と沖縄・奄美では、平年

に比べ晴れの日が少ない。

9月、北・東日本と西日本の日本海側では、天気は数日の周期で変わる。西日本の太平洋側と沖縄・奄美では平年と同様に晴れの日が多い。

野菜の市場概況

建値市場の5月の野菜の販売量は、212,698トン前年比98%(前月比98%)、平均単価はkg ¥262前年比110%(前月比101%)。市場別には多少のバラツキがあり、大阪本場と福岡市場は前年比増となっているものの、総じては入荷減の単価高となっている。市場別の販売量と平均単価は、札幌市場の販売量は前年比94%、平均単価はkg ¥285前年比126%。東京市場の販売量は前年比98%、平均単価はkg ¥273前年比109%。名古屋市場の販売量は前年比92%、平均単価はkg ¥259前年比111%。大阪本場の販売量は前年比102%、平均単価はkg ¥259前年比109%。福岡市場の販売量は前年比104%、平均単価はkg ¥192前年比110%となっている。

建値市場の5月の玉葱の販売量は22,135トンで前年比97%、(前月比101%)、平均単価はkg ¥241前年比262%(前月比98%)。販売量が前年比3%減で販売価格は前年比2.6倍になっている。数量減は3%に過ぎないが、玉葱は高いとの社会ムードが影響したと思われる。市場別では、札幌市場の販売量は2,394トン前年比101%、平均単価はkg ¥224前年比317%。東京市場の販売量は9,922トン前年比100%、平均単価はkg ¥257前年比253%。名古屋市場の販売量は4,471トン前年比80%、平均単価はkg ¥221前年比276%。大阪本場の販売量は3,281トン前年比111%、平均単価はkg ¥246前年比253%。福岡市場の販売量は2,067トン前年比105%、平均単価はkg ¥216前年比245%となっている。

日本農業新聞社によると、主要7地区代表卸7社の5月の主要野菜14品目の販売量と単価は、販売量が94,095トン前年比1%減、平年(過去5年平均値比)9%減。平均単価はkg¥169前年比14%高、平年比20%高となっている。販売量が前年比増の品目は、結球レタスが前年比8%増、キュウリが6%増、ネギが5%増など5品目。販売量が前年比減の品目はハウレンソウが前年比14%減、タマネギが8%減、ニンジンが7%減、など8品目。前年比高となった品目はタマネギがkg¥215で前年比162%高、キャベツがkg¥88で40%高、ダイコンがkg¥99で39%高など11品目。前年比安の品目は、ジャガイモがkg¥142で前年比42%安、ブロッコリーがkg¥330で5%安、ネギがkg¥390で1%安など3品目となっている。

東京都中央卸売市場の5月の野菜の入荷量は、119,649トン前年比98%(前月比101%)。平均単価はkg¥273前年比109%(前月比100%)で入荷は前年比減、前月比微増。価格は前年比高、前月比並みとなっている。主要15品目で入荷が前年比増の品目は、サトイモが前年比120%、レタスが108%、バレイショが102%など4品目。入荷が前年比減の品目は、ハウレンソウが前年比82%、ナマシイタケが86%、トマトが90%など11品目。価格が前年比高の品目は、タマネギがkg¥257で前年比253%、ハクサイがkg¥74で157%、キャベツがkg¥99で155%など10品目。前年比安の品目は、バレイショがkg¥164で前年比57%、サトイモがkg¥323で69%、ニンジンがkg¥135で94%など4品目となっている。

東京都中央卸売市場の5月の入荷量と単価

品 目	入荷量 (t)	前年比 (%)	前月比 (%)	単 価 (¥/kg)	前年比 (%)	前月比 (%)
野 菜 総 数	119,649	97.6	100.8	273	108.8	100.4
た ま ね ぎ	9,922	99.5	108.2	257	253.1	93.8
キ ャ ベ ツ	17,841	98.4	92.2	99	154.5	93.4
は く さ い	5,924	90.0	98.8	74	157.2	96.1
だ い こ ん	7,630	96.6	80.9	116	142.3	120.8
に ん じ ん	7,736	100.5	105.8	135	94.3	106.3
ば れ い し ょ	8,920	101.9	130.1	164	57.1	64.3
レ タ ス	6,604	108.1	96.1	167	100.7	94.9
ト マ ト	8,222	90.4	120.8	316	111.5	85.4
ね ぎ	3,657	97.2	95.8	408	98.5	132.0
か ぼ ち ゃ	1,875	92.3	105.9	257	108.1	105.8
な が い も	930	93.0	101.4	930	92.8	106.5
れ ん こ ん	172	44.1	56.2	1,023	177.8	111.4
に ん に く	283	109.8	130.4	952	77.7	89.1

玉葱の概況

需要(市場)の動き

東京市場

東京都中央卸売市場の5月の玉葱の入荷量は9,922トン前年比100%(前月比108%)。主力は佐賀物で入荷量は5,165トン前年比131%、占有率は52%前年比12ポイントアップ。兵庫物は1,263トン前年比111%、占有率は

13%前年比6ポイントアップ。北海物は1,188トン前年比36%、占有率12%前年比12ポイントダウン。千葉物は500トン前年比125%、占有率5%前年比1ポイントアップ。中国物は294トン前年比196%、占有率3%前年比1ポイントアップ。栃木物は224トン前年比369%、占有率2%前年比1ポイントアップ。総平均単価はkg¥257前年比253%(前月比94%)。産地別では、佐賀物はkg¥267前年比255%。兵庫物はkg¥285前年比250%。北海物はkg¥210前年比222%。千葉物はkg¥240前年比269%。中国物はkg¥207前年比219%。栃木物はkg¥251前年比245%となっている。

6月に入って、府県産地の入荷は予想外に順調で、需要は高値悩みと夏野菜への切り替わりで伸び悩み、荷余り傾向で弱含みとなった。他方、産地は強気で月後半の出荷減少が伝えられ、卸各社は売れ残り在庫を抱えながら、相場維持に努めた。関東産地の栃木物の入荷が始まったが、佐賀・兵庫物に比べると撰果・選別が甘く、イタミが混入されており、加工筋向けの安値販売となった。月後半には、入荷は減少傾向となったものの、需要は減退傾向でいずれの産地も上値が少なく下値が多い販売が続いている。月末からは、兵庫物と佐賀物主力になる。佐賀物はJA白石の除湿乾燥品の販売が主力となるが、需給がタイトにならない限り、現在価格を上回る高値販売は困難である。

6月2日～20日の入荷販売量は6,066トン前年比95%、平均単価はkg¥212前年比201%。兵庫物と香川物の入荷は前年を上回ったが、主力の佐賀物は大幅減となった。産地別では、佐賀物の入荷は2,485トン前年比87%、平均単価はkg¥224前年比212%。兵庫物は1,328トン前年比118%、平均単価はkg¥227前年比199%。香川物は484トンで前年比156%、平均単価はkg¥224前年比209%。栃木物は378トン前年比97%、平均単価はkg¥180前年比188%となっている。

名古屋市場

名古屋市中心卸売市場の5月の玉葱販売量は4,471トン前年比80%(前月比88%)で4月に続き前年比、前月比とも減となっている。主力は地場の愛知物で、販売量は2,911トン前年比91%、占有率は65%前年比7ポイントアップ。北海物は913トン前年比52%、占有率20%前年比12%ダウン。兵庫物は340トン前年比79%、占有率は8%前年比と同じ。ニュージーランド物は163トン前年はなし。総平均単価はkg¥221前年比276%(前月比112%)。産地別の平均単価は、愛知物はkg¥254前年比326%。北海物はkg¥97前年比131%。兵庫物はkg¥264前年比242%。ニュージーランド物はkg¥230前年は販売なしとなっている。

6月に入り、愛知物主力の販売となったが、買い方の意欲減退で荷動きは鈍化した。他方、産地は愛知・兵庫ともに強気で、値下げ販売が適わず、売れ残り在庫を抱えながら、価格維持の販売に努めたが、多少の投げ売りもやむを得ない状態に追い込まれた。昨今の入荷は減少傾向だが、荷動きは鈍く、売れ残り在庫は多い。愛知物は既に終了間近で、此の先は兵庫物主力の販売となる。6月初めには、府県産地の在庫は少ないとの情報を受け、市況回復を期待していたが、現状は未だ回復の気配は見受けられない。現在、兵庫物の仕切り値は¥4,200だが、需要が頭打ちで売れ残りの在庫が多い。

大阪本場

大阪市中心卸売市場本場の5月の玉葱の販売量は、3,281トン前年比111%(前月比116%)で前年比、前月比とも大幅増である。産地別の販売量は、兵庫物が1,950トン前年比118%、占有率59%で3ポイントアップ。佐賀物は884トン前年比126%、占有率27%で前年比3ポイントアップ。愛媛物は150トン前年比297%、占有率5%前年比4%アップ。大阪物は133トン前年比

119%、占有率4%で前年と同じ。総平均単価はkg ¥ 245前年比263%（前月比88%）。産地別の平均単価は、兵庫物はkg ¥ 251で前年比247%、佐賀物はkg ¥ 248前年比262%。愛媛物はkg ¥ 224前年比336%。大阪物はkg ¥ 246前年比271%となっている。

6月に入って、入荷は減少傾向となったが、需要も減退傾向で市場相場は軟調に転じた。2Lはそれなりに動くが、L・Mの動きが鈍く、大型店に安値で売り込みを考えたが、産地は強気で月後半には、田植えの農繁期を迎え、出荷が減少すると伝えられ、売り込みが出来ず、売れ残りを在庫した。割安の愛媛物には加工筋の受け皿があり、荷動きはまずまずで完売が続いている。昨今の市場は、予想通り入荷減が続いているが、量販店の売れ行き不振で荷動きは緩慢である。表面相場は、品薄を見越した卸の努力で保合を維持しているが、実態は弱気配である。

6月2日～20日の入荷販売量は1,959トン前年比94%、平均単価はkg ¥ 210前年比198%。産地別では、兵庫物は1,266トン前年比99%、平均単価はkg ¥ 216前年比191%。佐賀物は415トン前年比82%、平均単価はkg ¥ 211前年比218%。愛媛物は159トン前年比165%、平均単価はkg ¥ 178前年比241%となっている。

福岡市場

福岡市中央卸売市場の5月の玉葱販売量は、2,067トン前年比105%（前月比93%）で、前年比増、前月比減となっている。九州産地が主力となり、主力は佐賀物となった。佐賀物が1,404トンで、前年比105%、占有率68%前年比5ポイントアップ。長崎物は223トン前年比229%、占有率11%前年比6%アップ。中国物は178トン前年比304%、占有率9%前年比6ポイントアップ。北海物は74トン前年比24%、占有率5%前年比18ポイントダウン。総平均単

価はkg¥216前年比245%(前月比86%)で前年比高、前月比安となっている。産地別の平均単価は、佐賀物はkg¥232前年比264%。長崎物はkg¥230前年比277%。中国物はkg¥152前年比162%。北海物はkg¥108で前年比123%となっている。

6月に入り、佐賀物主力の販売となったが、相場は保合だが、弱気ムードが台頭し売れ行きが今ひとつで、銘柄に依る価格差が開いた。先行きの品薄を見越して、極力投げ売りを避け、中値以上の販売に努めた。産地は強気ムードのため、前売りを値下げすると、相場の回復が難しくなるので、売れ残りは在庫として抱えながら販売をして来た。福岡物はL中心の球流れで学校給食向けに販売している。此処に来て、佐賀物は産地在庫が少なく、入荷は減少傾向だが、前捌きが鈍く売れ残り在庫が増加傾向だが、それほど心配はしていない。JAの除湿乾燥物の入荷が始まり、販売指示価格は20kg¥4,200となっているが、荷動きは頭打ちで売れ残りが増えている。

6月2日～20日の玉葱販売量は1,222トン前年比87%、平均単価はkg¥191前年比195%。入荷は前年比減、単価は前年比2倍で高値水準を維持している。

6月25日(土)の建値市場の玉葱市況は次の通り

【札幌市場】 入荷62トン 強い

佐 賀 20kgDB2L ¥5,500～4,500、 L ¥5,500～4,500、 M ¥5,000～4,200。

栃 木 20kgNT2L ¥4,000～3,600、 L ¥4,500～4,000、 M ¥4,400～4,000。

兵 庫 20kgDB L ¥4,200～4,000、 M ¥4,200～4,000。

【太田市場】 入荷212トン 保合

佐 賀 20kgDB2L ¥4,500～4,000、 L ¥4,500～4,000、 M ¥4,500～4,000。

兵 庫 20kgDB2L ¥ 4,500～4,200、 L ¥ 4,500～4,200、 M ¥ 4,500～4,200。

栃 木 20kgNT2L ¥ 3,200～3,000、 L ¥ 3,500～3,300、 M ¥ 3,500～3,300。

【名古屋北部市場】 入荷109トン 弱い

愛 知 20kgDB2L ¥ 4,000～3,500、 L ¥ 4,000～3,800、 M ¥ 4,000～3,500。

兵 庫 20kgDB2L ¥ 4,200～4,000、 L ¥ 4,200～4,000、 M ¥ 4,200～3,800。

【大阪本場】 入荷101トン 弱い

兵 庫 20kgDB2L ¥ 4,000～3,800、 L ¥ 4,200～3,900、 M ¥ 4,000～3,700。

兵 庫 10kgDB2L ¥ 2,000～1,800、 L ¥ 2,100～1,800、 M ¥ 2,000～1,700。

愛 媛 10kgDB2L ¥ 1,600～1,500、 L ¥ 1,700～1,600、 M ¥ 1,600～1,500。

【福岡市場】 入荷109トン 保合

佐 賀 20kgDB2L ¥ 4,200～4,000、 L ¥ 4,200～4,000、 M ¥ 4,200～4,000。

佐 賀 10kgDB2L ¥ 2,100～1,800、 L ¥ 2,100～1,800、 M ¥ 2,000～1,700。

福 岡 10kgDB2L ¥ 2,000～1,800、 L ¥ 2,000～1,800、 M ¥ 1,800～1,700。

供給(産地)の動き

6～8月が出荷期となる府県産の中晩生は、いずれの産地も平年作が精々で、作付減もあり、生産量は前年を大きく下回った。市場相場は5月の高値市況から値下り傾向となったものの、前年の2倍以上の価格水準を維持したことで、早期出荷は得策とのムードから、出荷は前進化した。従って、6月末の産地在庫は、産地別にはかなりのバラツキはあるものの、全国的には前年比70%前後と予想されている。秋作の北海産は、定植は順調に進んだが、6月の低温と日照不足で、生育遅れの地域があり、回復が心配されている。亦。道東では6月18～19日の雹害で、作付面積の8分の1にあたる560haが被害を蒙った。産地では、被害状況の調査を進めている。

府県産地

佐賀産地では、中晩生の収穫は終了したが、高値市況が続いたことで、出荷は前進化している。通常、7～8月出荷用として、生産者のポリコン詰めハウス貯蔵の短期貯蔵や、吊り小屋利用の吊り玉も少ない。更に、青切と吊り玉の端境期の出荷用となる除湿乾燥も、JAを始め商系も減少している。主力のJA白石の除湿乾燥貯蔵は17万ケース程度で前年比3割減と言われている。販売は例年より一足早く27日販売からと聞いている。産地は、一段高の相場を期待しているものの、盛夏を迎え需要は減退傾向にある。

7～8月出荷の中心産地である淡路島の中晩生は、主力品種のターザンを始め、晩生種のカガヤキ、モミジ3号等の反収は平年作を上回り、豊作傾向と報告されている。地域格差はあるものの、早や植えは減収、遅植えは増収となり、遅植えの収穫も空梅雨で作業は順調に進んだ。調査機関の直近の調査では、中晩生の72%を占めるターザン種では、病害の発生率は、0.3%（前年は1.3%、過去10年平均は0.9%）。健全率は99.1%（前年は97.1%、過去10年平均は87.2%）。平均反収は7.228kg（前年は8.649kg、過去10年平均は6.956kg）。となっている。6月末の産地在庫は前年比80%前後と見ている。「淡路島たまねぎ」は、地域ブランドであるため、周年販売を希望する需要家も多く、秋冬期の販売となる冷蔵物の入庫が問題となっている。冷蔵入庫の多寡が7、8月の即売出荷に影響する。

北海道産地

広大な北海道では、6月の天候は地域により差があり、玉葱の生育にも地域差が出ている。未だ、作況を判断するのは、時期尚早だが、道庁の調査では主力産地の生育状況は、空知地区は、月前半の天候は、平均気温は13.6℃で平年比-1.3℃、日照時間は115時間で平年比123%、降水量は15.5mmで平年

比55%。玉葱の草丈は44.5cmで平年比-2.4cm、葉数は6.8枚で平年比-0.4枚、葉鞘径は11.3mmで平年比-0.3mm。総じては平年並み。富良野地区の月前半の天候は、平均気温は11.5℃で平年比-3.9℃、日照時間は31.5時間で平年比96.9%、降水量は46mm平年比400%。草丈は46.6cm平年比115%、葉数は6.7枚で平年比108%、葉鞘径は12.7cm平年比115%。総じては平年比3日前進。オホーツク地区の月前半の天候は、曇りで雨の降った日が多かった。平均気温は平年より低かった。日照時間は平年より少なかった。降水量は地域差はあるものの平年並みか平年より多かった。玉葱の草丈は40.2cmで平年比94%、葉数は6.0枚で平年比100%、葉鞘径は11.6mmで平年比100%。総じては平年並みとなっている。18日と19日には、訓子府町等で雹害が発生し、560haが被害を蒙ったが、多くの圃場では芯葉が生きているので、回復の早まることを期待している。

輸入動向

5月の輸入は速報値で、24,395トン前年比155%。今年は、国際的にマーケット価格が値上がりし、今までにないコスト高となったが、輸入量は日本の市況高を反映して予想をやや上回る数量となった。国別では、主力の中国が19,556トン前年比135%。ニュージーランドが3,594トン前年比348%。オーストラリアが612トン前年比327%。韓国が332トン、前年はなし。オランダが274トン前年はなし。となっている。

中国、産地は雲南省から山東省に移行しているが、今シーズンは減反・減収で、此の先大量の輸入は覚束ない。現在の日本向け価格は、20kg・C&F、ムキ玉\$12.00。皮付き\$10.00の水準になっている。

ニュージーランド、既報の通り、主産地プケコヘが不作。今も船腹確保が困難で、特にリーファコンテナが深刻。現在の価格は、65~75mmサイズ・20kg・

C&F・¥2,100(ドライコンテナ)、リーファーは¥100高となっている。

7月の市況見通し

7月は、盛夏を迎え玉葱の需要は減退期となる。今年の府県産の在庫は、減反・収量減に加え、春先からの異常高値を反映して出荷は前進化し、現在在庫は前年の70%程度となっている。主力産地の淡路島では、此の先冷蔵在庫期を迎え、出荷は即売と冷蔵在庫に二分され、冷蔵在庫の多寡が市況に影響する。中晩生の産地のなかには、北海産の雹害情報で、夏高を期待する向きもあり、7月の出回り量はかなりの減少が予想される。他方、需要は春からの高値続きで高値疲れが見受けられることや、盛夏を迎え煮炊き需要は減少する。他方、産地では北海産の作柄の様子見の出荷となり、需給は均衡から品薄傾向になる可能性が強い。市況は、6月の弱保合から強保合に転じる。と予想している。北海産の作柄が推測できる月末には、市況は山場を迎える。(笹野敏和記)